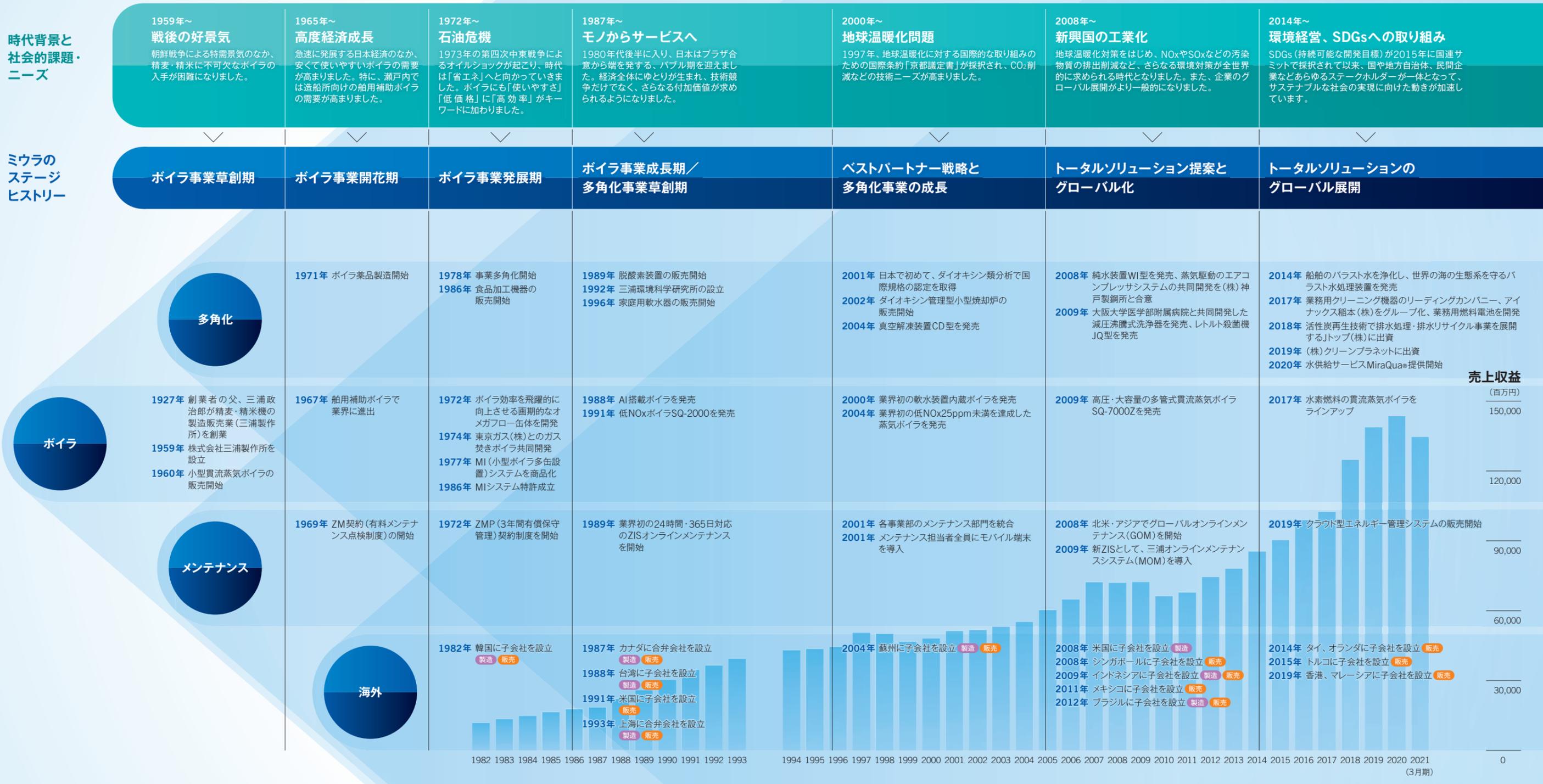


価値創造の軌跡

社会課題・ニーズに向き合い“テクノサービス”を磨いてきた歴史



受け継がれる テクノサービス という考え方

初代 三浦 保 (1959～1989年)

基礎機械のボイラの需要増加を見込み、小型貫流蒸気ボイラの開発に没頭し、製造販売をいち早く開始しました。さらに、当時無償サービスが一般的であったアフターサービスを有償化し、新たな付加価値を提供するビジネスへと転換しました。

二代 白石 省三 (1989～2004年)

お客様のニーズに応えるために事業領域を「熱」と「水」に明確に定め、技術力を磨きながら、創造性あふれる提案を推進していきました。生み出されたさまざまな製品は、お客様や社会、環境の課題解決に寄与するとともに、日本の産業・技術振興に大いに貢献しました。

三代 高橋 祐二 (2004～2016年)

エース級の人財を次々と海外拠点に送り込み、ミウラの環境負荷低減商品の海外展開に注力しました。また、お客様の工場全体のさらなる省エネルギー化を支援するために、熱・水・環境にかかわる商品とメンテナンスを複合的に提供するトータルソリューションを展開しました。

四代 宮内 大介 (2016年～)

持続可能な地球環境に向けた企業への要請の高まりを見据えて、次世代クリーンエネルギーに取り組んでいます。業務用燃料電池の開発、水素燃料の貫流蒸気ボイラのラインアップ化など、最先端分野への挑戦を続けています。